

2) レビー小体型認知症



α -シヌクレインというたんぱく質が脳に蓄積し、脳細胞に障害をきたすと考えられています。アルツハイマー病より記憶の障害は強くはありませんが、人や動物の幻が見えたり、動作が遅くなったり、筋肉がこわばるようなパーキンソン症状が現れたり、頭がはっきりしている時と、そうでない時を繰り返し返したりと症状が変動することが特徴です。

3) 血管性認知症



脳の血管が詰まったり出血したりして、脳細胞に障害を来すことが原因です。脳の障害される場所によって症状は様々ですが、記憶力や判断能力が低下したり、やる気がなくなったり、感情コントロールが出来なくなったりすることがあります。

その他にも、脳脊髄液が溜まってしまう正常圧水頭症という病気や、脳の腫瘍、感染症、ビタミン不足、ホルモンの異常、長期にわたる大量飲酒、薬剤などが原因となることがあります。このように、認知症には様々な病気があります。中には、治療できる病気もありますので、「認知症かな？」と思ったら早期受診が大切です。

■ 注意すべき初期症状

認知症の初期は、生活に困ることが少ないため、気が付かない事が多いのですが、以下のような症状には注意が必要です。

- ・ 同じ事を何度も質問する
- ・ 忘れ物や探しものが多くなる
- ・ 約束の日時や場所を間違える
- ・ 道に迷うことがある
- ・ 仕事や家事に時間がかかるようになる
- ・ 身だしなみがだらしなくなる
- ・ やる気がなく、出かけなくなる
- ・ 落ち着きがなくなる
- ・ 以前より怒りっぽくなる

